



自給的農業から特産品化への取組 —高齢農家によるハウスブドウ栽培の事例—



国立環境研究所 ○大和田 興・辻 岳史

身近な農環境を活用する自給的農業は、土着的（Vernacular）な側面によるものである。本事例では高齢農家が農作業の楽しみと、小遣いを得る楽しみを「生きがい」にしている。そこを起点に自給的農業から販売作物、さらに特産品化へと発展した取り組みであり、自給的農業と農業経営の連続性がみられた。しかし、高齢農家の自給的農業のみでは震災復興や過疎化の課題解決には限界がある。一方で、今を「いきいき」と生きることにも震災復興において求められる重要な課題であると示唆される。

はじめに

- ・ 福島県川内村のハウスブドウ栽培が近年拡大
- ・ 高齢農家が自家消費を目的とした栽培を開始
- ・ 栽培農家の拡大→販売されるようになった
- ・ 村外の農家にも栽培が波及
- ・ 楽しみと食料確保として自給的農業を継続
- ・ 自給的農業＝農環境や地域社会の文化的な一面
- ・ 自給的農業から特産品への試みへと発展
- ・ 本報告は高齢農家の自給的農業がもたらす地域農業再生について考察する。

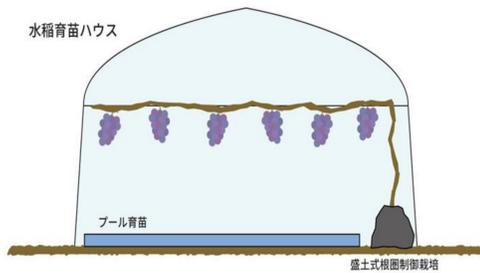


図1 水稲育苗ハウスを利用したハウスブドウ栽培

聞き取り調査結果の概要

- ・ 実家の農業を維持する
震災後も離農しない
自給的農業を継続
- ・ ハウスブドウ栽培
A氏、B氏は水稲育苗ハウスの有効活用が目的
A氏、販売作物の栽培ではなく、自家消費が目的
B氏、C氏は小遣いを得られることも楽しみ
B氏は村の特産品になることを期待
- ・ 2013年：水稲育苗ハウスの有効活用を検討
- ・ 2014年：高齢の複数農家が参加し生産組合を結成
- ・ 2019年：生産の安定化→地域の特産品化の模索

表1 経営概況

調査対	A	B	C
生年	1963	1954	1952
形態	兼業	専業	専業
同居	4人（母妻子）	2人（妻）	2人（妻）
農地面積	2.4ha	3.4ha	3a
畑面積	1ha	9a	2a
栽培品目	コシヒカリ、ひとめぼれ	ひとめぼれ、飼料用	委託
労働力	3人（家族）	2人（家族）	2人（家族）
出荷先	JA、村、直売所	卸会社、直売所	卸会社、個人
社会活動	行政区役員、米営農組織構成員	行政区長、JA生産部部長、ブドウ生産組合長	行政区長、農業委員会委員
後継者	△	△	×

聞き取り調査により筆者作成

表2 自給的栽培

農家	A	B	C
面積	畑3a、コメ6俵分	畑5a、コメ3俵分	畑2a、コメ2俵分
品目	コメ、キュウリ、ナス、玉ねぎ、ニンジン、トマト、豆、ハウスサイ、ダイコン	コメ、ダイコン、ハウスサイ、インゲン、ネギ、シシトウ、ダイズ、ブロッコリー、キャベツ、ジャガイモ	トマト、ダイコン、豆類、イモ
栽培	妻、母	妻	本人、妻
加工	妻、母：漬み餅、干し柿、漬物、味噌	妻：漬物など	妻：調理、漬物加工など
贈与	有：贈与のために十分に栽培、加工	有：子や親類へ贈与	有：希望者に贈与
販売	×	×	×

庭木果樹の概要（ブドウを除く）

品目	A	B	C
ウメ：5本、クリ：1本	クリ：3本、サクラノボ：1本	カキ、モモ、ブルーベリー、イチヂク、サクラノボ、クリ：各1本	
管理	最低限の管理（収穫は本人）	最低限の管理（本人）	最低限の管理（本人）
利用	食用	食用	食用
加工	○	○	×
贈与	有：親類など	無	有：希望者に贈与
販売	×	×	×

聞き取り調査により筆者作成

考察と結論

高齢農家と自給的農業

- ・ 地域農業再生→非経済の仕事の存在も必要
- ・ 高齢農家→体力が続く限りは農作業をしたい
この力を単に労働力と考えず→地域農業の活力
- ・ 高齢農家の「楽しみ」を肯定→過疎対策を示唆
- ・ 自給的農業は、生業であり農環境の管理や保全、地域社会（贈与など）の存続に貢献。

ハウスブドウ栽培の取り組み

- ・ 自給的栽培にある“Vernacular”な側面
- ・ 栽培のキッカケ→栽培と自家消費の楽しみ
- ・ 自給的農業から販売作物へと発展
農作業、贈与、小遣いの楽しみ
→組み合わせられて「生きがい」を得ている
- ・ “Empowerment” や存在意義としての期待

高齢農家の自給的農業による取り組み

- ・ 「いきいき」とした自給的農業、農環境が必要
- ・ 高齢農家は農業、農作業を継続を求めている
→被災地や過疎地域での高齢農家の生きる姿
「いきいき」と生きる→評価することも重要
「産業としての農業」の回復とは別の論理
- ・ 農村社会では根本的な農業は継続されている
- ・ 農家の生業を積極的に評価することが必要
- ・ 高齢農家は食料生産を担いつつ、楽しみの農業を実践するという農業経営と自給的農業の連続性が示唆される。
- ・ 今を「いきいき」と生きる高齢農家の姿を評価し本質的に豊かで魅力ある地域社会を創生する可能性がある。